

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	
科目	看護学概論			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	1 単位 (30時間)	
講師名	深野 久美	所属	副学校長	
<p>〔講義概要〕</p> <p>看護学の各専門領域を学ぶ基礎となる授業科目です。看護専門職として看護や看護の対象について学びます。家庭の中で行われていた看護が専門職に発展した歴史と、社会とともに変化する看護師への期待や役割を理解しましょう。そして、看護理論家の看護をもとに、自らの看護を述べることをめざしてください。</p> <p>また、看護師として対象になる人々の生きる時間や空間に関与する責任を学んでください。</p> <p>1. 科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護や看護学の発展の歴史を理解する</li> <li>2) 看護の考え方を構成する概念と、代表的な看護理論を理解する</li> <li>3) 看護の社会的責任や役割を理解する</li> <li>4) 看護における倫理を理解する</li> </ol>				
2. 講義内容				
回	講義内容		講義形態	
1	看護の概念		講義	
2	看護学の歴史		講義	
3	看護理論と看護モデル		講義	
4	ナイチンゲールの看護		講義	
5~6	人間理解の視点 人間と環境との関係 看護の対象単位 人間のライフサイクルと成長発達		講義	
7	健康の概念 国民の健康状態 健康の増進と疾病の予防		講義	
8~9	ヘンダーソンの看護と問題解決過程		講義・演習	
10	看護と法規定 医療事故における法的責任		講義	
11	看護倫理 看護実践と倫理 患者の権利と責務 道徳的判断における方法論		講義	
12	保健、医療、福祉の提供 保健医療福祉チームと看護 医療提供体制の改革 看護活動の場と看護の役割		講義	
13~14	看護理論の理解		演習	
15	ケアリング 看護とケアリング		講義	
講義の進め方	<p>おそらく始めて聴く看護学の専門的な用語や概念があると思います。テキストには看護学生として必要な学習内容が網羅されています。始めのページから理解しながら丁寧に読んでください。講義では皆さんが理解し難い内容を説明します。講義中に説明がなく、理解しにくい内容は、ぜひ質問してください。</p> <p>また、ノートを作成を通して自分がわかるように要約する、モデル化するや図式化することができるようになります。</p>			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	
科目	看護学概論			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	1 単位 (30時間)	
講師名	深野 久美	所属	副学校長	
テキスト	1) 系統看護学講座 「看護学概論」医学書院 第17版 2) F・ナイチンゲール著 「看護覚え書」現代社 3) V・ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 4) ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」ゆみる出版 5) ジーン・ワトソン著「ワトソン看護論-ヒューマンケアリングの科学」 医学書院 6) やさしく学ぶ看護理論 改訂4版(日総研) 監修:黒田 裕子 7) 看護六法 令和3年版(新日本法規)			
参考文献	1) カリタス・ロイ著「ザ・ロイ適応看護モデル」第2版 医学書院 2) オレム:オレム看護論(医学書院) 3) トラベルビー:人間対人間の看護(医学書院) 4) ペプロウ:人間関係の看護論(医学書院) 5) ウィーデンバック:臨床看護の本質(現代社) 6) 国民衛生の動向2021-2022(厚生労働統計協会)			
評価方法	1) 筆記試験 2) 課題レポート(詳細は講義の際に説明します) 「看護覚え書」 「看護の基本となるもの」 「ケアの本質」 「看護師の倫理綱領」			
講師情報	看護師として12年、専任教員として7年、学校管理者として7年、看護管理者として1年、大学教育3年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	
科目	看護研究の基礎			
対象学年・開講時期	2年・1学期	単位(時間数)	1 単位 (15時間)	
講師名	山田 巧	所属	教育主事	
[講義概要]				
1. 科目目標				
1) 研究の基礎的知識を理解する。				
2) 研究のプロセスが理解できる。				
3) 研究計画書の立案ができる。				
4) 文献検討の意義と活用を理解する。				
5) 研究論文の作成について理解できる。				
6) 研究発表・評価について理解できる。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1.看護研究の意義 2.問題解決と研究の相違 3.看護研究の種類と方法 4.看護研究のプロセス・研究計画書 5.研究における倫理			講義
2	1.研究における文献検索 2.研究論文のクリティーク 3.研究論文の構成・書き方 4.プレゼンテーション技術(口述発表・示説発表)			講義
3	1.文献検索と文献検討			演習
4～5	1.グループ研究 研究計画書(調査研究・実験研究)作成			演習
6～7	1.グループ研究 研究計画書にそって研究活動実施 2.研究の講評 3.事例研究とケーススタディ			演習
8	終了試験			
講義の進め方	本授業では、研究の基礎的知識、文献検討を行いグループで研究計画書を立案し、研究活動を実施する。最終的に3年次「看護の実践と統合IV(事例研究)」で事例研究につなげていく。			
テキスト	黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版			
参考文献	必要時、適宜紹介する			
評価方法	筆記試験および演習課題レポート(論文・抄録・スライド・クリティーク)で評価する。			
講師情報	看護師8年、大学教育13年、学校管理者6年、看護管理者3年、専任教員4年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	技術の概念
科目	基礎看護技術 I (基本看護技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	2 単位 (60時間のうち2時間)	
講師名	大野 美穂	所属	教育主事	
[講義概要]				
1. 単元目標 技術の概念と看護における技術の位置づけを理解する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. 技術とは 1) 看護技術の特徴 (1) アートとしての側面 (2) サイエンスとしての側面 (3) サイエンスとアートの融合 2. 看護技術を実践するための要素 3. 看護技術の習得に向けて			講義
講義の進め方	看護技術の習得に向けて重要となる技術の概念と看護における技術の位置づけについて講義を通して進める。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 第 17 版(医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術 II 第 17 版(医学書院)			
参考文献	なし			
評価方法	看護技術の習得に向けて重要となる技術の概念と看護における技術の位置づけについて講義を通して進める。			
講師情報	学校管理者 6 年、看護管理者 9 年、専任教員 7 年、看護師 10 年の実務経験があり、現在教育主事として従事している。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	コミュニケーション
科目	基礎看護技術 I (基本看護技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位 (時間数)	2 単位 (60 時間のうち 12 時間)	
講師名	石原 史絵	所属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標 看護におけるコミュニケーションについて考え、看護関係を成立させるための方法としてのコミュニケーションがわかる。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. コミュニケーションとは 2. 看護におけるコミュニケーション 1) 看護におけるコミュニケーションの特性 2) 看護におけるコミュニケーションの目的 (1) 対象との信頼関係を確立させる (2) 看護関係を成立させる 3) 基本的なコミュニケーション技法 (1) 受容 (2) 繰り返し (3) 感情の明確化 (4) 支持 (5) 指摘 (6) 情報の提供 (7) 指示			講義
2	1. 看護における面接 1) 看護における面接とは 2) 面接の技術 (1) 場面の設定の設定 (2) 空間と距離、位置関係 (3) 面接時のマナー 3) 看護師のカウンセリング的対応 (1) 看護カウンセリングの対象と効果 (2) 看護カウンセリングの基本技術 4) 面接時の倫理的配慮			講義
3	1. 器具を用いたコミュニケーション 1) 病院のコミュニケーション設備 (1) インターホン (2) ナースコール (3) 電話・PHS 2) 病院内における電話の対応 2. 障害に応じたコミュニケーション 1) 構音障害のある人 2) 視覚障害がある人 3) 聴覚障害がある人			講義
4	1. ロールプレイング 実際の患者とのコミュニケーション場面を設定し、ロールプレイング演習を行う。			演習
5	1. プロセスレコード 1) プロセスレコードの意味 2) 再構成の意味 3) プロセスレコード活用の意義			講義演習
6	1. プロセスレコードの演習			演習
講義の進め方	基本的に講義で進める。コミュニケーションは実践することが重要であるため、事例や状況にそった演習をしながら、自分自身のコミュニケーションの傾向を見つめられるように進める。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 第 17 版(医学書院) 看護がみえる Vol1 基礎看護技術 第 1 版 (メディックメディア)			
参考文献	仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス (医歯薬)			
評価方法	筆記試験、課題レポートにて評価する。			
講師情報	専任教員 14 年目である。看護師として 9 年の実務経験および基礎看護領域の教授経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	看護における情報の記録と共有
科目	基礎看護技術 I (基本看護技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	2 単位 (60時間のうち6時間)	
講師名	谷川 仁美	所属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標 看護において情報を記録すること、共有することの意義と方法を理解する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1.情報とは 1)看護における情報 2)情報の成立要因 2. 情報の管理、 1)守秘義務 2)個人情報の保護責任と記録の開示 3)電子媒体情報の管理			講義
2	1.医療における記録(医療記録) 1)診療録 2)看護記録 (1)看護記録の種類と内容 ①体温表 ②その他の診療補助記録 2.看護における記録の目的 1)看護実践の資料 2)継続的な看護 3)共同作業の効果をあげる 4)管理・運営上の資料 5)教育・研究の資料 6)法律上の証拠			講義
3	1.看護における記録の目的 1)看護実践の資料 2)継続的な看護 3)共同作業の効果をあげる 4)管理・運営上の資料 5)教育・研究の資料 6)法律上の証拠 2.記録の原則 3.看護記録の種類と記載方式 1)種類 (1)個人記録 (2)看護日誌 2)方式・特徴 (1)問題志向型システム(POS) (2)フォーカスチャータニング (3)経時的叙事的記録 (4)クリティカルパス (5)電子カルテによる記録 3)訂正方法 4.報告 1)報告の意義・目的 2)報告の種類 3)報告の留意点			講義 演習
<教育方法・教材>				
患者設定をし、「患者を観察したことを記録し、報告する」という一連のロールプレイを行う。 (看護記録用紙)				
講義の進め方	講義の中で、実際に記録、報告をする演習を取り入れながら進める。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 第17版(医学書院) 系統看護学講座 看護情報学 第2版(医学書院)			
参考文献	看護技術講義演習ノート下巻 診療に伴う看護技術編(医学芸術)			
評価方法	筆記試験にて評価する。			
講師情報	専任教員15年目である。看護師として15年の実務経験がある。			

領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学		単元名	安全・安楽
科目	基礎看護技術Ⅰ（基本看護技術）			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位（時間数）	2 単位（60時間のうち10時間）	
講師名	藤内 聖子	所 属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) 看護における安全と安楽の意義を理解する。				
2) 安全・安楽へ向けた援助方法を理解する。				
3) 感染予防の方法を理解し、手洗い、ガウンテクニック、無菌操作を実施できる。				
2. 講義内容				
回	講 義 内 容			講義形態
1	1.安全・安楽の意義 1) リスクマネジメント、セーフティマネジメント 2.患者の安全を阻害する危険因子 3.安全を守る技術 1) 事故防止（転倒・転落 2) 抑制			講義
2	1.感染とは 2.感染予防の意義 3.感染が成立するための構成要素 4.感染予防の3原則 1)病原体の除去 2)病原体の侵入経路の遮断 3)個体の抵抗力の増強			講義
3	1. 衛生的手洗いの実際			演習
4	1.感染予防の方法 1)病原体の除去 (1)消毒・滅菌 2)感染経路の遮断 (1)隔離法 (2)ガウンテクニック (3)手洗い (4)無菌操作（鑷子、綿球の取り扱い、包布の開き方） 3)個体の抵抗力の増強 2.院内感染の予防 1)スタンダード・プリコーション 2)医療廃棄物の取り扱い			講義
5	<校内実習> 1)ガウンテクニック 2)無菌操作 3)滅菌手袋の装着方法			演習
講義の進め方	講義形式とグループワーク、ビデオ学習、演習（校内実習）を行う。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版(医学書院) 看護がみえる Vol2 臨床看護技術第1版（メディックメディア） 系統看護学講座 成人看護学(11)アレルギー・膠原病感染症 第15版(医学書院)			
参考文献	ニュースや新聞などによる医療事故の資料などを情報提供する。			
評価方法	筆記試験にて評価する。			
講師情報	専任教員2年目である。20年看護師として従事し、感染管理の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	フィジカルアセスメント I
科目	基礎看護技術 I (基本看護技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	2 単位 (60時間のうち10時間)	
講師名	山田 巧	所属	教育主事	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) ヘルスアセスメントが持つ意味を理解する。				
2) フィジカルアセスメントに必要な技術を理解する。				
3) バイタルサインを正確に測定できる。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1.ヘルスアセスメントとは 1)ヘルスアセスメントが持つ意味 2)ヘルスアセスメントにおける視点 3)ヘルスアセスメントにおける重要な視点 2.健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1)問診(面接)の技術 2)健康歴聴取の目的 3)健康歴の聴取の実際 4)セルフケア能力のアセスメント 5)情報の整理 3.全体の概観 1)フィジカルアセスメントに必要な技術 (1)視診の技術 (2)触診の技術 (3)聴診の技術 (4)打診の技術 2)全身状態・全体印象の把握 4.バイタルサインの観察とアセスメント 1)体温 2)脈拍 3)呼吸 4)血圧 5)意識 5.バイタルサインに影響を与える因子			講義
2	1.体温の観察 1)体温の観察のポイント 2)体温測定部位 3)体温の測定器具 4)体温測定の方法 5)体温の正常・異常 2.呼吸の観察 1)呼吸の観察のポイント 2)呼吸の測定 3)呼吸の正常・異常 3.脈拍の観察 1)脈拍の観察のポイント 2)脈拍測定部位 3)測定方法 4)脈拍の正常・異常			講義
3	1.血圧の観察 1)血圧の観察のポイント 2)血圧測定法の種類 3)血圧計の種類 4)血圧測定部位 5)血圧測定の方法 6)測定時の要因による血圧変化 7)血圧の正常・異常 2.意識レベルの観察 1)意識とは 2)意識障害とは 3)意識レベルの評価方法			講義
4~5	<校内実習> ①呼吸の観察・測定 ②脈拍の測定 ③血圧の測定 ④体温の測定 ⑤意識レベルの評価 ⑥体温表への記入方法			演習
講義の進め方	さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、看護の視点から、対象の身体状態を客観的かつ正確に把握することができることをねらう。解剖生理学で学修した対象臓器や器官の構造と機能の知識を活用しながら、講義形式とグループワーク、ビデオ学習、演習(校内実習)により進めていく。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 第17版(医学書院) 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア) 看護形態機能学 第4版 (日本看護協会出版会)			
参考文献	写真でわかる実習で使える看護技術 (インターメディカ) 系統看護学講座 解剖生理学 第10版(医学書院) 人体解剖ビジュアル (サイオ出版)			
評価方法	筆記試験、講義に対する意欲・態度にて評価する。			
講師情報	看護師として8年間、クリティカル分野における実務経験がある。また大学教育13年、学校管理者6年、看護管理者3年、専任教員4年の実務経験がある。			



領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	フィジカルアセスメント II
科目	基礎看護技術 I (基本看護技術)			
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位 (時間数)	2 単位 (60時間のうち20時間)	
講師名	伊敷 史子	所 属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) フィジカルアセスメントを行う意義と重要性について説明できる。				
2) 対象の成長・発達の段階を考慮した基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、正確かつ安全・安楽に実施できる。				
3) フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。				
4) 得られた情報に基づいて、対象者に起こっていること・起こりうることをアセスメントし、必要な援助を考えることができる。				
2. 講義内容				
回	講 義 内 容			講義形態
1	1.肺(呼吸器系)の構造と機能 2.肺(呼吸器系)のフィジカルアセスメント			講義
2	1.肺(呼吸器系)におけるフィジカルアセスメントの実際			演習
3	1.心臓(循環器系)の構造と機能 2.心臓(循環器系)のフィジカルアセスメント			講義
4	1.心臓(循環器系)のフィジカルアセスメントの実際			演習
5	1.腹部(消化器系)の構造と機能 2.腹部(消化器系)のフィジカルアセスメント			講義
6	1.腹部(消化器系)のフィジカルアセスメントの実際			演習
7	1.感覚器系の構造と機能 2.感覚器系のフィジカルアセスメントと実際			講義 演習
8	1.運動器系の構造と機能 2.運動器系のフィジカルアセスメント			講義
9	1.脳神経系の構造と機能 2.脳神経系のフィジカルアセスメント			講義
10	1.運動器系のフィジカルアセスメントの実際 2.脳神経系のフィジカルアセスメントの実際			演習
講義の進め方	さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、看護の視点から、対象の身体状態を客観的かつ正確に把握することができることをねらう。解剖生理学で学修した対象臓器や器官の構造と機能の知識を活用しながら、講義形式とグループワーク、ビデオ学習、演習(校内実習)により進めていく。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 第17版(医学書院) 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)			
参考文献	写真でわかる実習で使える看護技術 (インターメディカ) 系統看護学講座 解剖生理学 第10版(医学書院) 人体解剖ビジュアル (サイオ出版)			
評価方法	筆記試験にて評価する。			
講師情報	専任教員1年目である。看護師としての実務経験がある。			

領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学		単元名	環境
科目	基礎看護技術Ⅱ（日常生活援助技術）			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位（時間数）	1 単位（30時間のうち10時間）	
講師名	西元 智子	所属	専任教員	
<p>[講義概要]</p> <p>1. 単元目標</p> <p>1) 健康生活の維持や疾病回復のために、生活環境の果たす役割について理解する。</p> <p>2) 患者が快適に生活するための環境条件と環境調整の重要性を理解し、環境調整の方法を理解する。</p> <p>3) 清潔でしわが無く、くずれにくい病床の作成ができる。</p>				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	<p>1. 人間にとっての環境の意義</p> <p>2. 環境因子</p> <p>1)物理的・化学的環境因子 2)社会的環境因子 3)人的環境因子</p> <p>3. 健康生活と環境の関わり</p> <p>4. 環境調整における看護師の役割</p> <p>5. 入院患者の生活環境</p> <p>1)病棟の構造 2)病室 3)病室環境調整の意義と病室環境</p> <p>6. 病室環境の構成因子と調整</p> <p>1)空気 2)屋内気候 3)採光・照明 4)色彩</p> <p>5)音 6)臭気 7)プライバシー</p> <p>&lt;事前課題&gt;</p> <p>人を取り巻く環境について環境マップを作成する。</p>			講義
2	<p>1. 病床の構成、病床に必要な条件</p> <p>2. 清潔でしわが無く、くずれにくいクローズドベッド</p> <p>1)シーツ類のたたみ方と作業領域を考えた広げ方</p> <p>2)清潔なシーツの整え方</p> <p>3)しわが無く、くずれにくいシーツの敷きこみと、角の作り方</p> <p>4)安全を考えた環境調整</p> <p>3. 安楽な療養環境</p>			講義
3~4	1. ベッドメイキングの方法 クローズドベッドの作成			演習
5	1. 臥床患者のシーツ交換			演習
講義の進め方	校内演習では、DVDを活用して授業を行う。			
テキスト	<p>系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版（医学書院）</p> <p>ベッドまわりの環境学 第1版（医学書院）</p> <p>看護がみえる Vol1 基礎看護技術 第1版（メディックメディア）</p> <p>看護形態機能学 第4版（日本看護協会出版会）</p>			
参考文献	看護技術講義・演習ノート上巻（サイオ出版）			
評価方法	筆記試験、演習に対する意欲・態度にて評価する。			
講師情報	専任教員11年目である。看護師として20年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	活動・休息と姿勢・体位
科目	基礎看護技術Ⅱ（日常生活援助技術）			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位（時間数）	1 単位（30時間のうち12時間）	
講師名	石川 志保	所属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) 人間にとっての活動と休息の意義を理解できる。				
2) 活動と休息への援助を理解できる。				
3) 安全で安楽な姿勢と体位を保つ援助が実施できる。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. 活動 1)活動の意味 2)活動の意義 3)活動の種類 4)活動と廃用症候群（廃用性萎縮）～身体活動の重要性・精神活動の重要性 2. 日常生活動作 ADL 3. 活動・運動の援助～身体活動への援助、レクリエーション			講義
2	1. 姿勢 1)よい姿勢 2)姿勢による生理学的変化 2. さまざまな体位 1)基本の体位 2)特殊な体位 3)良肢位 4)安楽な体位 3. ボディメカニクス 1)ボディメカニクスの意味 2)ボディメカニクスに関連する人間工学的な考え 3)よいボディメカニクス 4)人間の姿勢			講義
3	1. 体位変換の基礎知識 1)体位変換の目的 2)体位変換に活用する物理学的知識 3)体位変換に関するアセスメント 4) 体位変換のポイント 5)体位変換の方法			講義 演習
4	1. 体位変換と移乗・移送の技術の実際 1)床上での水平移動 2)仰臥位から側臥位 3)側臥位から長坐位 4)長坐位から端坐位 5)端坐位から立位 ＜事前課題＞ ・第5回目の授業までに以下のビデオを視聴する 「新しい体位変換のテクニック」(中央法規出版) (1)自然な動きを知ろう (2)基本的体位変換			演習
5	1. 休息とは 1)生体リズム 2)休息の意味 3)活動と疲労 4)休息の意義～休息の効果 身体面・精神面 2. 睡眠とは 1) 睡眠の生理 2)睡眠の型 3)年齢と睡眠時間 4) 睡眠障害～睡眠障害の種類と原因 5) 安眠への援助 3. 身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義
6	1. 移乗・移送の実際 1)車椅子への移乗・車椅子での移送 2)ストレッチャーへの移乗・ストレッチャーでの移送 3)杖歩行の介助 2. 安楽の演習 1)ポジショニング			演習
講義の進め方	日常生活における活動・休息の意義を理解し、援助を安全に安楽に実施するための身体力学の考え方を教授する。身体力学を活用して、実際の移乗・移送の援助につなげる。休息への援助として、安楽に休息ができるための支援と実際に体験しながら習得する。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版（医学書院） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版（メディックメディア） 看護形態機能学 第4版（日本看護協会出版会）			
参考文献	看護技術プラクティス（学研） 看護技術講義・演習ノート上巻（サイオ出版）			
評価方法	筆記試験、出席状況にて評価する。			
講師情報	専任教員 11年目である。看護師として8年、看護管理者として2年の実務経験がある。			

領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学		単元名	食事
科目	基礎看護技術Ⅱ (日常生活援助技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	1 単位 (30時間のうち8時間)	
講師名	谷川 仁美	所属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) 人間にとって食の意味を考え、健康な食生活とは何かを考える。				
2) 健康障害と食事との関連を理解する。				
3) 運動機能障害による経口摂取への影響を理解し食事援助の方法を理解する。				
4) 非経口での栄養摂取の方法と看護を理解する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1.人間にとっての食事の意味 2.健康な食生活とは 1)現代社会の食生活 2)食生活指針と健康日本 21 3.栄養状態の評価 1) 食欲・食行動に関する要因 (1)感覚情報 (2)臓器感覚 (3)精神状態 (4)消化機能・運動機能の働き (5)嗜好 (6)生活習慣 (7)食事の環境 2)栄養所要量と身体に必要な食物成分			講義
2	1. 摂食行動のアセスメント 1)食べることに必要な機能 (1)口腔へ食物を運ぶための運動機能 (2)嚥下・咀嚼の機能 2)摂食・嚥下訓練 (1)摂食・嚥下障害のアセスメントシート (2)嚥下検査 (3)援助の実際			講義
3	2.健康障害時の治療食 1)疾患や症状による栄養素の調整された食事 2)消化・吸収しやすい食事 3. 患者が自分で食事が出来ない場合の看護 1)非経口栄養摂取 (1)経管栄養法 (2)中心静脈栄養法			講義
4	1. 患者が自分で食事ができない場合の看護 1)座位保持・咀嚼・嚥下には問題ないが自己にて食事摂取できない患者の食事介助 2)臥床患者の食事介助			演習
講義の進め方	演習は、看護技術の必要性や根拠を考えながら、テクニックだけでなく、患者の安全・安楽・自立・個別を考えた食事の援助ができるように進める。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版 (医学書院) 看護がみえる Vol1 基礎看護技術 第1版 (メディックメディア) 看護形態機能学 第4版 (日本看護協会出版会) オールガイド食品成分表 2020 (女子栄養大学)			
参考文献	看護技術講義・演習ノート上巻 (サイオ出版) 臨床看護技術パーフェクトナビ (学研)			
評価方法	筆記試験、課題レポート、講義に対する意欲・態度にて評価する。			
講師情報	専任教員 15年目である。看護師として15年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	衣・清潔
科目	基礎看護技術Ⅲ (日常生活援助技術)			
対象学年・開講時期	1年・1学期	単位(時間数)	2 単位 (60時間のうち26時間)	
講師名	澁谷 幸子	所属	専任教員	
[講義概要]				
1. 単元目標				
1) 人間にとっての衣・清潔の意義、援助の方法を理解する。				
2) 衣・清潔の援助技術を習得する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. 清潔の意義 1) 身体的意義 2) 精神的意義 3) 社会的意義 2. 清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 3. 清潔援助に対する看護師の役割			講義
2	1. 病床での衣生活の援助 1) 衣服を用いることの意義 2) 熱産生と熱放散 3) 被服気候 4) 衣生活に関するニーズのアセスメント 5) 寝衣交換の方法と留意点 2. 清潔の援助の実際 (1回目) 1) 整容 (洗面, 眼・耳・鼻の清潔, 爪切り, ひげそり, 整髪) (1) 整容の目的 (2) 援助の方法と根拠 2) 口腔ケア (1) 口腔ケアの目的 (2) 援助の方法と根拠			講義
3~4	臥床患者の整容と口腔ケア			演習
5	1. 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 (1) 入浴の目的 (2) 入浴動作による呼吸器・循環器系への影響 (3) 援助の方法と根拠 2) 全身清拭 (1) 全身清拭の目的 (2) 援助の方法と根拠 3) 陰部洗浄 (1) 陰部洗浄の目的 (2) 援助の方法と根拠			講義
6~7	臥床患者の全身清拭、寝衣交換			演習
8	臥床患者の陰部洗浄			演習
9	1. 清潔の援助 1) 手浴 (1) 手浴の目的 (2) 援助の方法と根拠 2) 足浴 (1) 足浴の目的 (2) 援助の方法と根拠			講義
10	臥床患者の手浴・足浴			演習
11	1. 清潔の援助 1) 洗髪 (1) 洗髪の方法と根拠 (2) 援助の方法と根拠 (ケリーパッド・洗髪車・洗髪台)			講義
12~13	臥床患者のケリーパッドを用いた洗髪			演習
講義の進め方	演習を中心に、看護技術の必要性や根拠を考えながら、患者の安全・安楽・自立・個別性をふまえた清潔の援助ができるように進める。援助の実際については、DVD等を活用して授業を行う。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版 (医学書院) 看護がみえる Vol1 基礎看護技術 第1版 (メディックメディア) 看護形態機能学 第4版 (日本看護協会出版会)			
参考文献	看護技術講義・演習ノート上巻 (サイオ出版)			
評価方法	筆記試験、課題レポートにて評価する。			
講師情報	専任教員3年目である。看護師として17年の実務経験がある。			

領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学	単元名	排泄
科目	基礎看護技術Ⅲ (日常生活援助技術)		
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位(時間数)	2 単位 (60時間のうち22時間)
講師名	星野 睦美	所属	専任教員
[講義概要]			
1. 単元目標			
1) 排泄の意味を理解できる。			
2) 排泄の援助方法を理解できる。			
3) 床上排泄における基本的な援助が実施できる。			
4) 排泄の援助を受ける対象の心身の苦痛の緩和ができる。			
2. 講義内容			
回	講義内容	講義形態	
1	1. 排泄の意義 1)排泄の身体的・心理的・社会的意義 2)排泄の援助を受ける人の心理 3)排泄の援助を受ける人への倫理的配慮 2. メカニズム 1)排尿の整理 2)排便の整理 3)排泄の観察 4)排尿・排便に影響を及ぼす因子	講義	
2	1. 排便障害・排尿障害 2. 排泄障害による影響と、援助の選択方法 1)排泄の援助の目標 2)排泄援助の原則と留意点 3)事前な排泄の促し方	講義	
3	1. 排泄の援助技術の種類と排泄用具の選択 1)トイレでの排泄 2)ポータブルトイレでの排泄 3)尿器を用いた排泄の援助 4)便器を用いた排泄の援助 2. トイレにおける排泄の援助	講義 演習	
4~5	1. 便器・尿器の使用選択と使用時の看護 2. ポータブルトイレを使用しての排泄の援助 3. トイレにおける排泄の援助	演習	
6	1. 排便困難の援助 1)浣腸の援助方法、留意点 2)摘便の援助方法、留意点	講義	
7	1. 排便困難の援助 1)浣腸の援助【看護技術経験録Ⅲ-23】に該当 2)摘便の援助【看護技術経験録Ⅲ-25】に該当 <事前課題> 浣腸については、講義1週間前に実施手順・根拠・留意点を指定の用紙にまとめて提出する。	演習	
8	1. 排尿困難の援助 1)一時的導尿と持続的導尿導尿の目的・方法 2)一時的導尿の援助方法と留意点	講義	
9~10	1. 排尿困難の援助 1)一時的導尿と持続的導尿導尿の目的・方法 2)一時的導尿の援助方法と留意点 <事前課題> 導尿については、講義1週間前に実施手順・根拠・留意点を指定の用紙にまとめて提出する。	演習	
11	1. 持続的導尿導尿の方法と看護【看護技術経験録Ⅲ-22】に該当	演習	
講義の進め方	演習では、提示した事例に対する援助方法・用具の選択、安全・安楽を考慮した援助の実施と観察を行う。 1)尿器・便器を用いた援助 2)導尿(女性) 3)グリセリン浣腸 4)摘便 5)ポータブルトイレでの排泄援助		
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版(医学書院) 看護がみえる Vol1 基礎看護技術 第1版(メディックメディア) 看護がみえる Vol2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア) 看護形態機能学 第4版(日本看護協会出版会)		
参考文献	看護技術プラクティス(学研) 看護技術講義・演習ノート上巻(サイオ出版)		
評価方法	筆記試験、課題レポート、講義に対する意欲・態度にて評価する。		
講師情報	専任教員17年目。看護師として15年の実務経験がある。		

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	日常生活援助技術の統合
科目	基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助技術）			
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位（時間数）	2 単位（60時間のうち12時間）	
講師名	澁谷 幸子	所属	専任教員	
<p>〔講義概要〕</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ（日常生活の援助）の前に位置づけられている本単元は、各科目で学んだ看護技術を、事例患者に応じて援助を組み合わせながら実施できるための内容で構成する。また、日常生活の一場面は、様々なニーズの組み合わせから成り立っていることに気づき、そのニーズを充足させるための看護について学ぶ。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>1) 患者の日常生活の状況を理解することができる。</p> <p>2) 患者に必要な日常生活援助を考えることができる。</p> <p>3) 計画した日常生活援助を患者に合わせて実施・評価できる。</p> <p>2. 講義内容</p>				
回	講義内容			講義形態
1	<p>1. 現象の詳細な記述</p> <p>2. 他者の捉え方を知る</p> <p>3. 看護師として何を見るか</p> <p>4. 事例に生じている現象を捉え、その意味を考え、今後の成り行きを推論する</p>			講義 演習 VTR 視聴
2	<p>1. 対象のニーズの把握 対象の充足・未充足を捉え、対象にあった看護介入を考える。</p> <p>&lt;事前課題&gt; 次回の授業までに、対象のニーズを明確にする。</p>			演習
3	<p>1. 対象に必要な日常生活援助の計画立案</p> <p>1) 援助の必要性</p> <p>2) 援助目標の考え方</p> <p>3) 介入計画の根拠（OP・TP・EPの考え方）</p> <p>4) 個別性のある計画</p> <p>&lt;事前課題&gt; 次回の授業までに、援助計画を立案する。</p>			講義 演習
4	<p>1. 対象に必要な日常生活援助の計画実施のための演習 *グループで計画立案した内容を演習し、追加・修正を行う。</p> <p>&lt;事前課題&gt; 次回の授業までに、援助計画の追加・修正を行う。</p>			演習
5	<p>1. 計画の実施</p> <p>1)安全・安楽な援助</p> <p>2)患者の個別性の応じた援助</p> <p>&lt;事前課題&gt; 次回の授業までに、評価を行う。</p>			演習
6	<p>1. 評価とは</p> <p>1)成果の判断 2)主観的情報、主観的情報 3)目標達成の判断</p> <p>2. 評価の視点</p> <p>1)目標の具体性 2)援助方法の妥当性 3)患者の反応</p> <p>4)援助の振り返り、次回援助への反映</p>			講義 演習
講義の進め方	事例を用いて援助を考えるにあたり、これまで学習した知識・技術を統合し、それらを活用する方法を教授する。			
テキスト	事例展開に必要なテキストや副読本は参考文献等を参照し、学習者各自で選択する。			
参考文献	V・ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会			
評価方法	課題レポート、出席状況にて評価する。			
講師情報	専任教員3年目である。看護師として17年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	ロイの看護過程展開の実際																														
科目	基礎看護技術IV (看護理論と看護過程展開・演習)																																	
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位(時間数)	1 単位 (45時間)																															
講師名	濱崎 友実	所属	専任教員																															
<p>1. 単元目標</p> <p>1) 看護過程について理解できる。</p> <p>2) ロイ適応看護モデルについて理解することができる。</p> <p>3) 看護過程の展開方法が理解できる。</p> <p>(1)対象の適応状態をアセスメントする方法がわかる。</p> <p>(2)看護診断を確定する方法がわかる。</p> <p>(3)看護計画立案の方法がわかる。</p> <p>(4)評価の視点がわかる。</p> <p>4) 事例を用いて看護過程の展開ができる。</p> <p>5) 看護計画に基づいて援助を実施し、評価を行い、援助の振り返りができる。</p>																																		
<p>2. 講義内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>講義内容</th> <th>講義形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>1. 看護過程とは</p> <p>1)看護過程の構成要素</p> <p>2) 看護過程展開の基盤となる考え方</p> <p>(1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)情報分析の方法</p> <p>(4)倫理的配慮と価値判断</p> <p>3)看護過程の各段階</p> <p>(1)アセスメント (2)看護問題の明確化(看護診断) (3)看護計画 (4)実施 (5)評価</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2~3</td> <td> <p>1. ロイ適応看護モデル</p> <p>1)ロイ適応看護モデルの構成要素 2)ロイ適応看護モデルの看護過程</p> <p>3)適応様式の概要</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>1. 事例の理解、学習の仕方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>事例患者の事前課題</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <p>1. 基礎情報用紙とは</p> <p>2. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>基礎情報用紙記載</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6~11</td> <td> <p>1. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>前回の修正および本時分のアセスメント</p> </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td> <p>1. 看護診断</p> <p>(1) カルペニートの診断ラベル</p> <p>診断ラベル、定義、定義上の特性、診断指標、関連因子、危険因子</p> <p>(2) 共同問題</p> <p>看護師が病気の発症や状態の変化を見つけるためにモニターする身体的合併症</p> <p>(3)看護診断のタイプ</p> <p>①問題焦点型 ②リスク型 ③ヘルスプロモーション型 ④シンドローム</p> <p>⑤可能性の看護診断</p> <p>2. クラスタリングの考え方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第1段階アセスメントの追加・修正</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13~14</td> <td> <p>1. 第2段階アセスメント(刺激のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第2段階アセスメント記載</p> </td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td> <p>1. 問題リスト</p> <p>2. 関連図</p> </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td> <p>1. 関連図</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> </td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>					回	講義内容	講義形態	1	<p>1. 看護過程とは</p> <p>1)看護過程の構成要素</p> <p>2) 看護過程展開の基盤となる考え方</p> <p>(1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)情報分析の方法</p> <p>(4)倫理的配慮と価値判断</p> <p>3)看護過程の各段階</p> <p>(1)アセスメント (2)看護問題の明確化(看護診断) (3)看護計画 (4)実施 (5)評価</p>	講義	2~3	<p>1. ロイ適応看護モデル</p> <p>1)ロイ適応看護モデルの構成要素 2)ロイ適応看護モデルの看護過程</p> <p>3)適応様式の概要</p>	講義	4	<p>1. 事例の理解、学習の仕方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>事例患者の事前課題</p>	講義	5	<p>1. 基礎情報用紙とは</p> <p>2. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>基礎情報用紙記載</p>	講義	6~11	<p>1. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>前回の修正および本時分のアセスメント</p>	講義 演習	12	<p>1. 看護診断</p> <p>(1) カルペニートの診断ラベル</p> <p>診断ラベル、定義、定義上の特性、診断指標、関連因子、危険因子</p> <p>(2) 共同問題</p> <p>看護師が病気の発症や状態の変化を見つけるためにモニターする身体的合併症</p> <p>(3)看護診断のタイプ</p> <p>①問題焦点型 ②リスク型 ③ヘルスプロモーション型 ④シンドローム</p> <p>⑤可能性の看護診断</p> <p>2. クラスタリングの考え方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第1段階アセスメントの追加・修正</p>	講義	13~14	<p>1. 第2段階アセスメント(刺激のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第2段階アセスメント記載</p>	演習	15	<p>1. 問題リスト</p> <p>2. 関連図</p>	講義	16	<p>1. 関連図</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p>	演習
回	講義内容	講義形態																																
1	<p>1. 看護過程とは</p> <p>1)看護過程の構成要素</p> <p>2) 看護過程展開の基盤となる考え方</p> <p>(1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)情報分析の方法</p> <p>(4)倫理的配慮と価値判断</p> <p>3)看護過程の各段階</p> <p>(1)アセスメント (2)看護問題の明確化(看護診断) (3)看護計画 (4)実施 (5)評価</p>	講義																																
2~3	<p>1. ロイ適応看護モデル</p> <p>1)ロイ適応看護モデルの構成要素 2)ロイ適応看護モデルの看護過程</p> <p>3)適応様式の概要</p>	講義																																
4	<p>1. 事例の理解、学習の仕方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>事例患者の事前課題</p>	講義																																
5	<p>1. 基礎情報用紙とは</p> <p>2. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>基礎情報用紙記載</p>	講義																																
6~11	<p>1. 第1段階アセスメント(行動のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>前回の修正および本時分のアセスメント</p>	講義 演習																																
12	<p>1. 看護診断</p> <p>(1) カルペニートの診断ラベル</p> <p>診断ラベル、定義、定義上の特性、診断指標、関連因子、危険因子</p> <p>(2) 共同問題</p> <p>看護師が病気の発症や状態の変化を見つけるためにモニターする身体的合併症</p> <p>(3)看護診断のタイプ</p> <p>①問題焦点型 ②リスク型 ③ヘルスプロモーション型 ④シンドローム</p> <p>⑤可能性の看護診断</p> <p>2. クラスタリングの考え方</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第1段階アセスメントの追加・修正</p>	講義																																
13~14	<p>1. 第2段階アセスメント(刺激のアセスメント)</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>第2段階アセスメント記載</p>	演習																																
15	<p>1. 問題リスト</p> <p>2. 関連図</p>	講義																																
16	<p>1. 関連図</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p>	演習																																



領域	専門分野Ⅰ 基礎看護学		単元名	ロイの看護過程展開の実際
科目	基礎看護技術Ⅳ (看護理論と看護過程展開・演習)			
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位(時間数)	1 単位 (45時間)	
講師名	濱崎 友実	所属	専任教員	
	関連図の記載			
17	1. 看護計画 (1)長期目標と短期目標 (2)看護目標と実施に向けた具体的看護介入計画 <事前学習> 計画立案			講義 演習
18	1. 看護計画(看護計画立案) <事前学習> 1日の実習計画立案			演習
19~20	1. 計画に基づく看護実践			演習
21	1. 評価とは 2. 評価の実際(1日の実習記録における評価) <事前学習> 1日の実習記録における評価の記載			講義 演習
22	1. 評価の実際(全体の看護計画における評価) <事前学習> 全体の看護計画における評価の記載			演習
23	まとめ			
講義の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例を用いてロイ適応看護モデルに基づき看護過程を展開する。毎回課題学習をもとにグループワークや個人ワークの演習にて検討を行いながら進める。</li> <li>グループワークや全体検討は自己の考えや疑問に思ったことを積極的に述べながら授業に参加してください。</li> <li>課題の提出時は一連をA4サイズのフラットファイルに綴じて提出してください。</li> </ul>			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)系統看護学講座：基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ 第16版(医学書院)</li> <li>2)ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院)</li> <li>3)看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)</li> <li>4)系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第10版(医学書院)</li> <li>5)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 第5版(医学書院)</li> <li>6)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 第15版(医学書院)</li> <li>7)系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 第13版(医学書院)</li> <li>8)系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 第14版(医学書院)</li> <li>9)わかる！身につく！病原体・感染・免疫 第3版(南山堂)</li> <li>10)系統看護学講座 基礎看護学(4) 臨床看護総論 第6版(医学書院)</li> <li>11)系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 第17版(医学書院)</li> <li>12)看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)</li> <li>13)疾患別看護過程の展開 第5版</li> <li>14)看護過程に沿った対症看護 第5版(学研)</li> <li>15)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版(医学書院)</li> </ol>			
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版(医学書院)</li> <li>2)看護診断基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版(医学書院)</li> <li>3)看護理論(南江堂)改定第2版 編集：筒井 真優美</li> <li>4)関連図の書き方をマスターしよう(サイオ出版)</li> <li>5)看護形態機能学 第4版(日本看護協会出版会)</li> <li>6)看護がみえる Vol.4 看護過程の展開(メディックメディア)</li> <li>7)ロイ適応看護論入門(医学書院)</li> </ol>			
評価方法	課題レポート			
講師情報	専任教員8年目。看護師として7年の実務経験がある			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	経過別看護												
科目	臨床看護技術 I															
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位(時間数)	1 単位 (30時間のうち6時間)													
講師名	今田 南生人	所属	専任教員													
<p>[講義概要]</p> <p>人間の各発達段階に共通する経過や症状に対する看護の基本的な考え方を学習する。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>各経過の特徴と看護を理解する。</p>																
<p>2. 講義内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>講義内容</th> <th>講義形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 健康の保持増進をめざす看護について            1)健康水準の変動            2)健康水準と看護の主な目的            3)健康の保持・増進をめざす看護         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           1. 急性期看護について            1)急性期の特徴            2)急性期患者のニーズと看護援助            3)セルフケアの支援・早期リハビリテーション            2. リハビリテーション期の看護について            1)リハビリテーション期の特徴            2)リハビリテーション期の看護に用いられる概念・理論            3)リハビリテーション期の患者のニーズと看護援助         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>           1. 慢性期について            1)慢性期の特徴            2)慢性期の看護に用いられる概念・理論            3)慢性期の患者のニーズと看護援助            2. 終末期の看護について            1)終末期の特徴            2)終末期の患者のニーズと看護援助         </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					回	講義内容	講義形態	1	1. 健康の保持増進をめざす看護について 1)健康水準の変動 2)健康水準と看護の主な目的 3)健康の保持・増進をめざす看護	講義	2	1. 急性期看護について 1)急性期の特徴 2)急性期患者のニーズと看護援助 3)セルフケアの支援・早期リハビリテーション 2. リハビリテーション期の看護について 1)リハビリテーション期の特徴 2)リハビリテーション期の看護に用いられる概念・理論 3)リハビリテーション期の患者のニーズと看護援助	講義	3	1. 慢性期について 1)慢性期の特徴 2)慢性期の看護に用いられる概念・理論 3)慢性期の患者のニーズと看護援助 2. 終末期の看護について 1)終末期の特徴 2)終末期の患者のニーズと看護援助	講義
回	講義内容	講義形態														
1	1. 健康の保持増進をめざす看護について 1)健康水準の変動 2)健康水準と看護の主な目的 3)健康の保持・増進をめざす看護	講義														
2	1. 急性期看護について 1)急性期の特徴 2)急性期患者のニーズと看護援助 3)セルフケアの支援・早期リハビリテーション 2. リハビリテーション期の看護について 1)リハビリテーション期の特徴 2)リハビリテーション期の看護に用いられる概念・理論 3)リハビリテーション期の患者のニーズと看護援助	講義														
3	1. 慢性期について 1)慢性期の特徴 2)慢性期の看護に用いられる概念・理論 3)慢性期の患者のニーズと看護援助 2. 終末期の看護について 1)終末期の特徴 2)終末期の患者のニーズと看護援助	講義														
講義の進め方	各看護学で学習する看護の礎として、全ての発達段階を対象に共通する経過の特徴と看護について学習する。															
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(4) 臨床看護総論 第6版 (医学書院)															
参考文献	経過別看護過程の展開 (学研)															
評価方法	筆記試験にて評価する。															
講師情報	専任教員7年目である。看護師として11年の実務経験がある。															

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	症状別看護
科目	臨床看護技術 I			
対象学年・開講時期	1年・2学期		単位(時間数)	1 単位 (30時間のうち10時間)
講師名	今田 南生人	所属	専任教員	
[講義概要]				
人間の各発達段階に共通する経過や症状に対する看護の基本的な考え方を学習する。				
1. 単元目標				
1) 各症状の発生機序を理解する。				
2) 各症状にある患者のニーズとその看護を理解する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. 痛みのある患者の看護 1) 人間としての痛みとは      2) 痛みに影響する心理的要因 3) 痛みのメカニズム            4) 痛みの基本的な治療 5) 痛みのある患者の看護 <事前学習> テキストの範囲の予習			講義
2	1. 発熱時の患者の看護 1) 体温調整のメカニズム      2) 発熱と随伴症状 3) 発熱時の看護                4) 罨法(技術演習) <事前学習> テキストの範囲の予習と罨法について事前学習			講義 演習
3	1. 循環障害のある患者の看護 1) 循環障害に関連する症状のメカニズム 2) 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 【看護技術経験録VI-70】に該当 3) 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 <事前学習> テキストの範囲の予習			講義
4	1. 呼吸障害をもつ患者の看護 1) 呼吸障害とは                    2) 呼吸障害に対する治療 3) 呼吸障害のある患者のニーズ    4) 呼吸障害のある患者の看護 <事前学習> テキストの範囲の予習			講義
5	1. 酸素療法(技術演習) 【看護技術経験録VI-65) 67) に該当】 2. 口腔内吸引(技術演習) 【看護技術経験録VI-62) 63) 66) に該当】 <事前学習> 酸素療法、口腔内吸引について事前学習			演習
講義の進め方	演習と講義を組み合わせる。フィジカルアセスメントの講義内容や病態学総論で学んだ知識を活用しながら症状別の看護を考えていく。演習では、罨法、酸素吸入・吸引・酸素ボンベの取り扱いについて演習を行う。 シラバスを参照しながら、次回講義までに必ず予習をして講義に臨む。			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(4) 臨床看護総論 第6版 (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学(3) 基礎看護技術II 第17版 (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 (メディックメディア) 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 (メディックメディア) 看護過程に沿った対症看護 第5版 (学研)			
参考文献	臨床看護技術パーフェクトナビ (学研)			
評価方法	筆記試験 講義・演習に対する意欲・態度にて評価する。			
講師情報	専任教員7年目である。看護師として11年の実務経験がある。			

領域	専門分野 I 基礎看護学		単元名	診療・検査・治療の理解とその看護
科目	臨床看護技術 I			
対象学年・開講時期	1年・2学期	単位(時間数)	1 単位 (30時間のうち14時間)	
講師名	石川 志保	所属	専任教員	
[講義概要]				
診察における看護師の役割と様々な検査における介助の方法を理解する。				
1. 単元目標				
診察を受ける患者の心理や介助の方法を理解する。				
2. 講義内容				
回	講義内容			講義形態
1	1. 診察の介助 2. 検査の介助			講義
2	1. 臨床検査の種類 2. 検査結果の評価 3. 検体検査の種類と看護 1) 尿検体 2) 便検体 3) 喀痰検体 4) 血液検体【看護技術経験録X-123) に該当】 5) 穿刺による検体採取			講義
3	1. 生体検査の種類と看護【看護技術経験録X-124) に該当】 1) 循環機能検査 2) 呼吸機能検査 3) 画像検査 4) 内視鏡検査 5) 核医学検査			講義
4	1. 静脈血採血 1) 採血に伴う合併症 2) 静脈血採血法の種類と必要物品 3) 検査値の変動因子 4) 真空採血管での採血方法 5) シリンジでの採血方法毛細血管採血			講義
5~6	1. 採血モデルを使用したの技術演習【看護技術経験録X-122) に該当】			演習
7	1. 創傷管理技術 1) 創傷の治癒過程 2) 皮膚創傷治癒の基本 3) 創傷の処置と看護(演習含む) (1) 創洗浄と創保護【看護技術経験録VII-76) 77) に該当】 (2) テープによる皮膚障害 (3) 包帯法について【看護技術経験録VII-75) に該当】			講義 演習
講義の進め方	創傷管理技術(創洗浄、創保護、各種包帯の巻き方)の校内実習 静脈血採血の校内実習			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学(3)基礎看護技術II 第17版(医学書院) 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)			
参考文献	臨床看護技術パーフェクトナビ(学研)			
評価方法	筆記試験にて評価する。			
講師情報	専任教員11年目である。看護師として8年、看護管理者として2年の実務経験がある。			